

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 笠岡国際交流協会

1 事業の趣旨・目的 (具体的に)

増加していく外国人へ対応するために、日本語講座を行い、日本語講座を充実するためにボランティアを育成する。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
9月9日 11:00 ~ 12:30	市民活動支援センター	高畑 幸 大塚 善彦 土屋恵美子 西井 和子 花澤 孝子 若田恵美子 山田 裕美	定住をスムーズにするためには	<ul style="list-style-type: none">・韓国の事例 国土が狭く、人口も少ない韓国では、農村に外国人の花嫁を奨励している。 夫になる韓国人の男性にもセミナーを開いたり(出席すると報酬が支給される)、韓国語講座、花嫁に韓国語講座、朝鮮料理講座を開催したりしている。結婚して2年で韓国籍がとれる。外国人と言っても差別されることはない。・定住しやすいような施策に国が支援している韓国のようになればよい。・外国人の出身国の文化に敬意を持ちつつ、日本人になりきらそうと言うのでもなく進める。・語学ボランティアにも謝礼を支給すべき。

<p>2月10日 14:30 ~ 16:15</p>	<p>市民活動支援センター</p>	<p>高畑 幸 小畑 浩子 大塚 善彦 瀬戸 恒子 花澤 孝子 山田 裕美</p>	<p>日本での定住外国人の現状と笠岡国際交流協会の問題点。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山形の日本語講座の事例 定住の最初は日本語の勉強。書記が大切。農村花嫁は「養ってくれるのだから6か月はがんばろう」をスローガンにしている。 ・外国語大学があるところはボランティアが多いが、過疎地など、ポルトガル語ができないところは忘れられたり、地域によって格差がある。 ・善意に頼ってはいけない。 ・外国人の相談について 相談者・自治体相談窓口、通訳の3人が電話で話せるトリオフオンというものがある。相談者の顔が見えないので、相談しやすい。 相談窓口・通訳の人と顔を合わせないので必要以上に外国人に頼られたりしない利点がある。 ・日本語教育は効果が上がっている。 ・日本語教師、ボランティアは現在身分が不安定。 ・コーディネーターが必要。 ・地域ベースの日本語が必要。 ・いろいろなメンバーのための日本語ボランティアの人数を増やす。 ・市民に多文化共生の大切さを理解してもらうのはむずかしいが努力していく。 ・いろいろな外国人、カリキュラム、仕事、協会として市として何を重視していくかトータルプランを考える。
------------------------------------	-------------------	---	-----------------------------------	---

【写真】



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 笠岡国際交流協会 日本語教育講座
- (ア) 研修の目標 日本語の教えかたを学び、レベルの違う外国人に教えられるボランティアを育成する。
- (2) 受講者の総数 17 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- (3) 開催時間数(回数) 40 時間 (20 回)
- (4) 参加対象者の要件 ボランティア経験者としているが、希望者には許可。
- (5) 受講者の募集方法
ホームページ、公民館やイベントで配布
- (7) 研修会場
ア 講義 笠岡市市民活動支援センター
イ 実習 笠岡市中央公民館
- (8) 使用した教材・リソース
「中級へ行こう」「完全マスター2級 日本語能力試験文法問題対策」
「毎日の聞き取り50日」「ニュースで学ぶ日本語」

「新日本語能力試験」

「中級を学ぼう」「中上級日本語表現文型」「楽しく覚えるにほんご語彙・表現」

「考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文型」

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
6月12日 10:00～ 11:00	・自己紹介 ・これまでの活動 ・疑問に思っていること 語彙→文法→読解→ディスカッションの流れで何をどのように教えるか。	中村 普子 弥勒の里国際学院 日本語学校 校長	4名
6月19日 10:00～ 12:00	中級から学ぶ日本語 L1, 2 教科書紹介①「中級から学ぶ日本語」 日本語能力試験N2N3の合格に向けての指導の仕方 ・誤用訂正・似ていることば	中村 普子 弥勒の里国際学院 日本語学校 校長	4名
7月3日 10:00～ 12:00	中級から学ぶ日本語 L3, 4 教科書紹介② 「中級から学ぶ日本語」 ・日本語能力試験N2N3の合格に向けての指導の仕方 ・誤用訂正・似ていること	中村 普子 弥勒の里国際学院 日本語学校 校長	9名
7月31日 10:00～ 12:00	中級から学ぶ日本語 L5, 6 教科書紹介③ 「中級から学ぶ日本語」 ・日本語能力試験N2N3の合格に向けての指導の仕方 ・誤用訂正・似ていること	中村 普子 弥勒の里国際学院 日本語学校 校長	6名

8月7日 10:00～ 12:00	中級から学ぶ日本語 L7, 8 教科書紹介④ 「中級から学ぶ日本語」 ・日本語能力試験N2N3の合格に向けての指導の仕方 ・誤用訂正・似ていること	中村 普子 弥勒の里国際学院 日本語学校 校長	11名
8月28日 10:00～ 12:00	中級から学ぶ日本語 L9, 10 教科書紹介⑤「中級から学ぶ日本語」 ・日本語能力試験N2N3の合格に向けての指導の仕方 ・誤用訂正・似ていること	中村 普子 弥勒の里国際学院 日本語学校 校長	4名
9月25日 10:00～ 12:00	中級から学ぶ日本語 L11, 12 教科書紹介⑥ 「中級から学ぶ日本語」 ・日本語能力試験N2N3の合格に向けての指導の仕方 ・誤用訂正・似ていること	中村 普子 弥勒の里国際学院 日本語学校 校長	7名
10月2日 10:00～ 12:00	中級から学ぶ日本語 L13, 14 教科書紹介⑦ 「中級から学ぶ日本語」 ・日本語能力試験N2N3の合格に向けての指導の仕方 ・誤用訂正・似ていること	中村 普子 弥勒の里国際学院 日本語学校 校長	7名
10月15日 13:00～ 15:00	1 はじめに 使用教科書・参考書 2 中級教科書 「中級を学ぼう」 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	6名

10月22日 13:00~ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 教科書の使い方 第1課 2 文型 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	4名
11月5日 13:00~ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 教科書の使い方 第2、3課 2 文型 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	5名
11月19日 13:00~ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 教科書の使い方 第3課 2 文型 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	5名
12月3日 13:00~ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 課題「~ところ」 教科書の使い方 第4課 「~うえで」「~点で」 2 文型 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	5名
12月17日 13:00~ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 課題「形容詞」 教科書の使い方 第5課 「~に対して」「~に通して」 2 文型 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	4名

1月7日 13:00～ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 課題 教科書の使い方 第 6 課 「～に対して」「～に通して」 2 文型 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	6名
1月14日 13:00～ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 課題 教科書の使い方 第 6 課 2 文型 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	6名
2月4日 13:00～ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 課題 教科書の使い方 第 7 課 「～に対して」「～に通して」 2 文型 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	4名
2月24日 13:00～ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 課題 教科書の使い方 第 8 課 「中上級日本語表現文型」 凡人社 2 文型 3 課題	安原 順子 神戸女子大学 准教授	5名
3月3日 13:00～ 15:00	1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 課題 教科書の使い方	安原 順子 神戸女子大学 准教授	3名

	<p>第 9 課 「考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文型」</p> <p>2 その他の教科書 課題 授業の組み立て方</p> <p>3 課題</p>		
<p>3月18日 13:00～ 15:00</p>	<p>1 中級教科書の使い方 「中級を学ぼう 中級中期」 教科書の使い方</p> <p>第 10 課 「考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文型」</p> <p>2 その他の教科書</p> <p>3 まとめ</p>	<p>安原 順子 神戸女子大学 准教授</p>	<p>4名</p>

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- ・継続して学習できた。
- ・課題がむずかしく一生懸命だった。
- ・実際に教える時今までの学習が役に立った。
- ・もっと学習したい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

ボランティアが日本語を教えていく上で、日本語教育講座は必要不可欠である。どの学習でもそうであるように、よい教師に巡り合うことが、日本語が上達する条件の一つのように思う。受講生が真面目であればあるほど、ボランティアの質を向上させることは私たちの責務であると思う。今回、日本語講座でのボランティアの研修では、受講生が知識も教授法も昨年より成長しており、ひとまず成功であったと思う。これからも、教授法において信用を得られる人材を育成していくことに努めたい。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

日本語講座、日本語教育講座については、これまで通り行っていきたい。

平成23年度は、「婦人の友の会」の方の指導を仰ぎ、主婦の日本語講座受講生に家事家計について学習してもらい、金銭的にもより安定した家庭生活を送ってもらいたい。また、衣食住を学ぶことは日本の四季折々の生活の仕方を学ぶことでもある。

日本語教育講座をよりPRし、多くの人材育成に励みたい。市と協働でこれからの

支援体制をシステム化していく。地元大学との協働で、学生にも授業に参加してもらったり、色々な団体と連携していきたい。県内の大学の日本語の先生などにも参加していただくなど、各方面からの支援を頂きながら、外国人の定住に力を注いでいきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携 特になかった。日本語講座生が参加するイベントなどに参加してもらった。

② 研修後の人材活用
笠岡国際交流協会日本語講座でボランティアを行った。
5人

(12) 今後の課題

外国人が増えるのに対しボランティアが少ない。また、年々ボランティアの家庭の事情などが変わったり、日本経済の影響か一年の中でも変化がありボランティアを行えない状況になってきたりする。これまで以上に宣伝し、なるべく長くボランティアを行ってもらえる人材を発掘・養成したい。笠岡国際交流協会の事業評価が低迷しているということで、日本語教育講座、日本語講座と合わせ多文化共生事業の大切さを地道にPRしていく必要がある。